

平成19年度 企画事業実施報告

- 1 事業名 「発達障害児(ADHD 児)のための海洋体験セミナー」
- 2 期 日 平成19年9月15日(土)～17日(月) 2泊3日
- 3 募集定員 10人
- 4 参加者 11人(家族11組,総勢34名)
 <内 訳> ADHD・LD 4人(男子4人)
 LD(書字障害) 1人(男子1人)
 広汎性発達障害 3人(男子3人)
 高機能自閉症 2人(男子2人)
 注意欠陥 1人(男子1人)
- 5 講 師 チーム西村プロジェクト 代 表 西村 一広 (プロセラー)
 小池 哲生
 高橋 英夫
 村橋 俊之
 村橋 順美
 淡路市立浦小学校 教 諭 本田 ゆか (臨床心理士)
 大阪府立茨木養護学校 教 諭 加藤 美朗 (臨床心理士)
- 6 ボランティア 13名(男性3名,女性10名)
 <内 訳> 大学生 4人(男性2人,女性2人)
 学校教員 3人(男性1人,女性2人)
 療育センター等 3人(女性3人)
 その他 3人(女性3人)
- 7 実施プログラム 9月15日(土)
 14:30～15:00 開講式
 15:00～16:30 子どもプログラム:「ディスクゴルフ」
 親 プログラム:「ペアレントトレーニング」
 18:00～20:30 子どもプログラム:「バーベキュー」
 親 プログラム:「ペアレントトレーニング」・「バーベキュー」
 21:30～22:30 子どもプログラム:「約束事の設定」
 親 プログラム:「ヨット実習の意義と留意点」
 9月16日(日)
 9:00～12:00 ヨット実習 ,グラウンドゴルフ
 13:00～16:00 カヌー実習(悪天候のため,プログラム変更)
 18:30～19:30 子どもプログラム:「問題解決大作戦ゲーム 惑星への旅!!」
 (コミュニケーションスキルアッププログラム)
 親 プログラム:「ペアレントトレーニング」
 20:00～21:30 ナイトアクティビティ(星空観察,ウミホタル観察)
 9月17日(月)
 9:00～11:30 カヌー実習(悪天候のため,プログラム変更)
 12:30～13:00 ふりかえり(親子別々)
 13:00～13:30 閉講式

8 プログラム内容

台風の影響を受け、初日を除いて予定していたプログラムを大きく変更することとなった。

一日目は、開講式後、ディスクゴルフを行い、その中で、ボランティアスタッフは担当する子どもたちの行動を記録し、特徴的な行動を把握するとともに、本セミナーにおける子どもの行動目標設定のための情報を収集した。その間、親は行動療法の理論を基盤とした「ペアレントトレーニング」の講義・実習をうけ、子育てにおけるさまざまな問題について、具体的な課題解決のアプローチを学んだ。夜のプログラムでは、バーベキューを行い、その際も、スタッフはできるだけ手を貸さずに子どもの様子を見ながら、積極的な行動、望ましい行動が出たときには、それを記録するとともに、意図的に賞賛した。親は引き続き、講義・ワークショップを行った後、子どもたちと合流し家族全員でバーベキューを食した。親は子どもが家族のために調理したことを意図的・積極的に賞賛し、子どもの自己効力感を高めることを狙いとした。就寝前には、「約束事の設定」プログラムを行い、みんなが安全にセミナーに参加するにはどのようにすればいいのかについて講義・話し合いが行われた。親に対しては予定を変更してヨット担当の講師より「ヨット実習の意義と留意点」という内容で、翌日以降も天候が回復しない場合、安全を第一に考えヨット実習ができないこともありうるという説明があった。

二日目は、天候と海上の状況が悪く、急遽、午前中は所内の友遊池（旧プール）でヨット実習、午後は比較的波の穏やかな福良湾内に移動し、カヌー実習を実施した。親・講師・スタッフは、「ペアレントトレーニング」で学んだ「ほめる環境設定」を意識しながら、子どもたちとともに楽しんで実習をこなした。夜は「グループワーク」をとおして、上手な他者理解と自己主張のスキルを学んだ。親は海洋体験実習を通して学んで欲しいこと等のシート作成をとおして、客観的に、子どもの行動目標を設定し、課題解決を考えるワークショップをこなした。その後、親子そろって星空観察やウミホタル観察などの体験活動を実施した。

三日目、実習予定地である海水浴場湾内の波の状況が回復せず、前日に続いて福良湾でカヌー実習を実施した。講師の「参加者が飽きないように」との配慮から、チームを組んでリレー競技を行った。移動時間の関係もあり短時間の実施であったが、参加者が一体となり、大きな歓声が飛び交った。

9 広報の方法

HP での案内や開催要項を主だった療育センターなどに配布するとともに、講師である臨床心理士とかかわりのある発達障害児の親の会や兵庫県教育委員会から紹介を受けた発達障害児の親の会に対し、電話やメールを用いて広報活動を実施した。

10 参加者の声

- ・ 色々、手配してくださり普段できない活動をさせていただきありがとうございました。
- ・ 海を通しての体験はいいと思います。
- ・ 楽しく、楽にできた。もっと子ども同士で交流する時間があったら仲間になれたかも。
- ・ ヨット、カヌーという普段では対応できない体験をさせていただきました。カヌーに乗る前に注意された、海では遊ばない、子ども同士でカヌーに乗らないという点、やはりお子さんは守れないということはあると思いますが、注意されたことを守ると一方で言い聞かせていたので「何故？」ということは、本人はかなり不満だったようです。厳しい点をもう少し出していただくのも実習の一つだと思います。
- ・ 次の機会があれば他の家族も参加させたい。
- ・ ヨットに乗れなかったのは残念ですが、一緒に色々チャレンジできる「雰囲気」「環境」をスタッフが率先して作っていただきありがとうございました。
- ・ 今回、たくさんの方々に「ほめて」いただいて子どもが一番必要な自信をつけることができました。これからは親として子どもを受け入れて「ほめる」ことで自信力アップにつなげ

ていきたいと思います。皆様本当にありがとうございました。

- ・親子ともにのびのびと楽しく参加できました。ボランティアの方々や先生方にも大変お世話になりました。また、機会があれば参加したいと思っています。
- ・普段の生活の中で、同じ年頃の子供達と楽しいはずの行事に参加しても、たいていは、怒りと悲しみの涙にぬれて息子を見るばかりです。しかし今回は、つまづきつつも、笑顔に彩られた楽しい旅行でした。一見、普通に楽しんでいるようかもしれませんが、我が家にとっては奇跡的なイベントでした。それも入念に準備をし、心くだいてくださった皆様の支えあってのことです。心からの感謝とこれかも皆様がご活躍なさいます事をお祈り申し上げます。
- ・西村先生の次のチャレンジは何ですか。僕は今度こそヨットに乗って自分で操縦したいです。(子ども参加者)
- ・今回、このプログラムに参加させていただいて、西村先生はじめ大勢の先生方のご協力のおかげで、私たち親子にとって忘れることのできない思い出ができました。先生方のお心はとてもたくさんこちらにも伝わりました。心からお礼を申し上げます。先生方に出会えたことは、子どものこれからの成長にとってもプラスになると思います。ありがとうございました。村橋先生、たくさんの笑顔子どもにプレゼントしていただきありがとうございました。

11 担当者所見

台風の影響を受け、悪天候のため本来計画していたプログラムの大半が実施不可能となった。しかしながら、ヨット講師陣の懸命の創意と工夫で急遽、友遊池(旧プール)でのヨット体験や波風の影響の少ない湾内でのカヌーを中心とした「海洋体験」として実施することができた。その中で、親子が力を合わせてヨットやカヌーを操作したり、さまざまなペアをつくってレースを楽しんだりすることができた。実習に際しては、講師・スタッフが事前研修で確認した 指示の出し方 待ち時間の工夫 「ほめる」ことを主体としたフィードバックなどが、統一的にスムーズに展開されていた。参加者からは、「ほめていただいて親も子どもも自信がついた」や「子どものよい行動をよく見てくれた」などの声が聞かれた。

また、ボランティアスタッフは、子ども・親担当のそれぞれの講師から「行動の記録」や「行動目標の設定」、「子どもへの関わり方」など、きめ細かい情報把握と「応用行動分析」の理論に基づいた子どもへの対応など、高いレベルのスキルを要求され気を抜く暇もなかったが、「子どもと保護者の喜ぶ顔が見ることができて本当に来てよかった。」や「来年も是非参加したい。」などの保護者の声を聞いてボランティアスタッフが、誇りや充実感を味わうことができたとの感想を述べるなど、リーダー育成の観点からも効果があったと考えられる。

発達障害児に対するヨット実習という初めての試みを実施するにあたって、講師陣は事前準備以後、相互に連絡を取り合い、綿密な計画の検討を行った。天候・波の状況により、中止となった場合を想定した代替プログラムの設定や安全管理面での準備と徹底、参加者一人一人のフェイスシートの作成などを具現化した。特に事前にフェイスシートを作成したことで子どもの特徴や親の要望を把握することができ、より適切な担当スタッフの割り当てや対応などが可能となった。さらに、講師とスタッフ、担当者がメールを通して、事前研修以後、確認事項や展開方法などを継続的にやりとりし、共通認識を深め合い十分な体制でセミナー当日を迎えられたことなどが、突発的なプログラム変更があったにも関わらず、大きな成果をもたらしたと考えられる。

領域の違う講師陣が相互に作用し合って事業を展開できたことは、当所にとっても大きなモデル事業となった。参加者、講師、スタッフそれぞれがはじめての領域に関わったことで、今後の活動領域の広がりを期待したい。